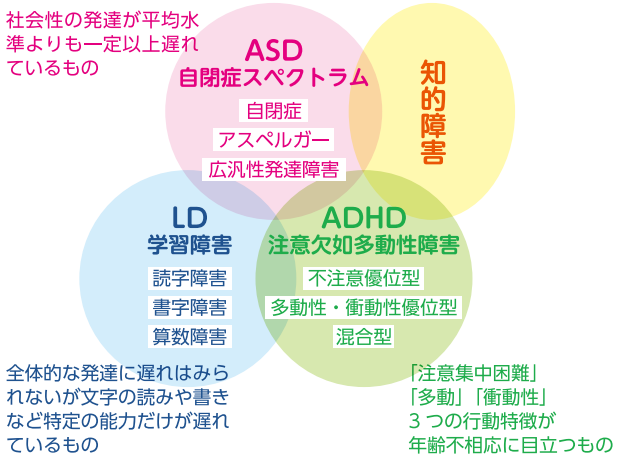
主な発達障害の分類と特性



その他

■トゥレット症候群
複数の運動や音声チックが続く重症なチック障害。

■吃音
一般的に「どもる」話し方の障害で、滑らかに話すことが年齢等に比して不相応に困難な状態。

■発達性協調運動障害
手と目、手と足などの個別の動きを一緒に行う協調運動が、不正確、困難な障害。

発達障害であることは目に見えないため、周囲から理解されにくい障害です。車いすや松葉杖を使う人のように困っていることが明確でなく、周囲も本人も、実は根底に発達障害があると気付いていないことがあります。

発達障害の診断を受けることで、そのような誤解や理解不足の軽減につながります。

ヘルプマーク

発達障害など配慮や援助を必要としていることが外見からは分かりにくい場合に、周囲に配慮を必要としていることを知らせることで、援助が得やすくなることを目指して作成されました。お住まいの市町村や、県障害福祉課などで配布されています。

二次障害への対応

発達障害の特性について周囲の理解がないと、失敗や叱責によって傷つく体験が続いてしまいます。そうしたストレスの高まりや自己肯定感（自分自身の価値や存在意義を肯定できる感情）の低下によって、精神的な崩れや問題行動等につながることがあります。

誰でもうまくいかないことが続くと自暴自棄になることはありますが、発達障害の人の場合は、その理解のされにくさによって傷つく可能性が一段と高くなります。

支援のポイント

★特性の理解（得意なこと、苦手なことを知る）
★自分自身と周囲の理解（特性や支援の必要性を自分で理解し、周囲にも知ってもらう）
★対処方法や工夫の検討（どんな支援や工夫があれば苦手が軽減するか考え試してみる）
★本人に適した環境設定（安心して過ごせる環境を整えていく）

医療機関を受診するときは

現在お困りの様子だけでなく、小さい頃からのご様子やエピソードなどが大切な情報になります。母子手帳や当時の成績表を持参したり、出来事をメモにまとめるなどの準備があるとスムーズな診察につながります。

県内で発達障害の診察が可能な医療機関の一覧は「秋田県発達障害支援ハンドブック」に掲載されています。このハンドブックは、ふきのとう秋田のホームページ【https://airc.or.jp/fukinotou/f-top.html】にも掲載しています。

作成・お問合せ先
秋田県発達障害者支援センター
ふきのとう秋田
〒010-1409 秋田市南ケ丘 1-1-2　TEL.018-826-8030

正しく知りたい発達障害❶

乳幼児期

発達障害とは

◉発達障害は、生まれつきの脳の働きや発達のアンバランスさによって、普段の生活に支障が出てしまうことを言います。
◉本人の努力不足や保護者の養育によって起こるものではありません。
◉早い時期から周囲の理解が得られ、その人に合った適切な支援や環境の調整が行われることが大切です。
◉発達障害の方の困りごとや苦手さは、人それぞれ異なります。その人が困っていることを知ることが第一歩です。
◉感じ方や考え方の違い、できないことを「努力不足」と決めつけず、その背景にあるものを探ってみましょう。
◉発達障害に関する相談先や、診断が可能な医療機関を活用しましょう。

発達障害における支援とは

◉発達障害は生まれつきのものですので、治療したり完治させたりすることはできません。
◉発達障害による特性（その人の苦手なこと）を正しく理解し、必要な支援や対処方法を見つけていくことで、特性による困りごとを軽減させていくことが目標です。
◉そういった対処方法を本人や家族など、本人に関わる周囲の人と一緒に考えていくことが、発達障害支援の大きなポイントです。

秋田県発達障害者支援センター
ふきのとう秋田

乳幼児期

さまざまな特性の現れ方

コミュニケーション

言葉の遅れ
人見知りしない

生活

じっとしていられず
すぐ走って行ってしまう
気持ちの切り替えが苦手

遊び

物を並べる、
重ねてみて楽しむ
テレビの同じシーンを繰り返し見る
キラキラしたものをずっと見ている

保育園や幼稚園、認定こども園

他の子と一緒に遊ばない
慣れるのにとても時間がかかる

感覚

ちょっとした音に敏感
洋服の生地感が気になる
過度な偏食

紹介している特性は一例です。
また、発達障害でない場合も同様の言動がみられることがあります。

理解・対応

◉発達に遅れや偏りがある場合は、そのことに早く気付き、周囲が理解して特性をいかす支援をすることが大切です。
◉発達障害があることが目に見えにくいため、問題となる行動が、本人のわがままや保護者の養育のせいであると誤解されることが多くあります。それがきっかけで、子育てに自信がもてなくなることもあります。
◉早い段階で発達障害であることに気付くことで、本人の特性を知り、それに合った対応を考えていくことができます。

発達障害に気づく、相談する

◉地域の保健所、保健センター、保健師
◉小児科
◉保育園や幼稚園、認定こども園
◉乳幼児健診のとき
◉児童相談所
◉発達障害者支援センター　など

療育や ペアレント・トレーニング

発達障害の特性によっては、さまざまな社会的スキルが身に付きにくいことがあります。そういった難しさをサポートするプログラムを利用することで、子どもにとっても、また保護者にとっても、有意義な成長や子育てにつながります。

療育

幼少期から子どもの行動面に働きかけ、身辺自立や認知、言語、運動などの領域の発達を促したり、社会的スキルを身に付けることを目的とした支援プログラム。

ペアレント・トレーニング

子どもの行動問題を解決するために、子育ての知識とスキルを学ぶプログラム。発達障害のある子どもではなく、その家族を対象に行うもの。

SST (Social Skills Training)

挨拶やマナーを守ることなど、相手やその場に応じた行動をするといった社会生活や対人関係を円滑に営むために必要な技能（ソーシャルスキル）を、意図的な場面設定をして練習していくもの。

支援の例

★クリアしやすいよう、課題を細かく分けて取り組むようにする（スモールステップ）
★できたら褒めるを繰り返す
★肯定的な言葉を意識する
「宿題しなきゃ、ゲームできないよ」→
「宿題したら、ゲームできるよ」
★具体的な言葉を使う
「きちんと片付けて」→
「電車のおもちゃを赤い箱にしまって」